

は し が き

言語センター長 副 島 美由紀

『言語センター広報』第29号をお届けいたします。新型コロナウイルスの地球的拡大により歴史的な年となった令和2年度は、当言語センターでも実に様々なことがありました。まず、尾形弘人前言語センター長に代わり、本年から私、副島が言語センター長を拝命いたしました。尾形先生は2014年度から6年もの長きにわたって言語センターの運営を担って下さいましたが、その驚異的な事務能力に支えられた期間は、言語センターの安定期として長くメンバーの間で語り継がれることでしょう。そのお働きに対し、尾形先生には心よりお礼を申し上げます。副センター長として続投する羽村貴史教員と共に、2年間という限られた時間ではありますが、今後もよりよい外国語教育を目指しますので、よろしくお願い申し上げます。

言うまでもなく、今年は新型コロナウイルス関連の対応に明け暮れた1年となりました。突然日本中の大学が遠隔授業という新しい授業形態への移行を余儀なくされ、我々教員の側にも最初は大きな不安がありました。しかし、遠隔授業の告示から実際の授業開始までの一か月間、言語センターの一部のスタッフは「新型コロナウイルス対策プロジェクトチーム」のメンバーとして遠隔授業の手法を研究し、また他の教員たちも非常勤講師ともどもFD講習会に複数回参加して様々な努力をいたしました。その甲斐あって、学生も教員も予想より速く新しい授業形態に順応できたようです。そして遠隔授業に関して行われた学生アンケートにおいて、外国語科目の授業は他の科目にも増して、その誠実な姿勢と充実した内容によって高評価を得ることができました。授業の運営主体としては、ひとまず胸をなでおろした次第です。とは言え、学習内容の定着度確認や評価の方法等、まだ模索中の課題もあります。従って今年度のFD活動としては、従来なら成績評価において50%以内と定めてきた「秀・優」の割合を「必要なら60%」まで拡大し、非常勤講師を含めた教員を対象にして遠隔試験の成績評価に関するアンケートを実施しました。来年度の前期にも遠隔・対面混在授業が予定されているようなので、今後もこのようなFD活動を続け、授業改善の努力を重ねていくつもりです。

このコロナの渦中では、下に記載する通り多くの活動が中止、延期、又は非開催となりましたが、新たな活動も生まれました。例えば、Web会議ツールが全学的に利用可能になったことにより、中国語系で双方向通信授業の新しい可能性が得られました。BL (Blended Learning) プロジェクトの「異文化ビジネス教育」としては、これまでショーン・クランキー教員の主催により行われていた英語レクチャー・シリーズ (ゲストによる英語での講演) に代わり、同教員がアメリカのポピュラー音楽を紹介するという新しいZoom講座も誕生しました。また、言語センターのデジタルタスク室は、BLプロジェクトによって培ってき

たICT技術やデジタル教材作成のノウハウを生かし、オンライン開催となったオープンキャンパスや準備段階にある「北海道国立大学機構」のためのオンデマンド教材作成、遠隔授業のサポートといった様々な場面において、本学にとって必要不可欠な組織としての役割を十二分に果たすこととなりました。施設面では、2つのLL教室の改修事業がありました。前年度から発足していたLL仕様策定委員会が、尾形弘人教員と山田久就教員を中心に尽力して下さり、12月には無事に新しいLL教室が着工しました。この2教室は令和3年度の4月から使用可能になるはずです。その他、開始から20年目を迎えた現在のカリキュラム中、外国語必修科目を現状に見合ったかたちに調整すべく、言語センター全体で外国語科目のカリキュラム改革に着手したことも言及に値するでしょう。

暗いニュースの多かった1年でしたが、もちろん明るいニュースもありました。まず9月1日に、個別言語部門日本語系教員として山川史准教授が赴任いたしました。山川教員は早稲田大学で日本語教育学の博士号を取得され、留学生の日本語習得を主な研究対象としています。学部留学生および短期留学プログラム参加生の日本語教育に十分な力を発揮されることでしょう。さらに、韓国語系の李賢俊教員が、昨年度出版された著書『「東洋」を踊る崔承喜(チェ・スンヒ)』(勉誠出版)により、第42回サントリー学芸賞(芸術・文学部門)を受賞するという快挙を成し遂げられました。小さな単科大学である本学から権威ある学術賞の受賞作が誕生したことは、「北に一星あり、小なれどその輝光強し」という名言を想起させる出来事だと言えるでしょう。

以下、主な動きを箇条書きにて報告いたします。

【教員の動向】

- 特任教授就任：個別言語部門英語系、ダニエラ・カルヤヌ教授(4月1日)
- 新任教員の赴任：個別言語部門日本語系、山川史准教授(9月1日)
- 教授昇任：比較言語文化部門英語系、佐々木香織教授(10月1日)
- サバティカル研修からの帰国：李賢俊教員(韓国語系)(9月、米国コロンビア大学より)
- サバティカル研修の開始：佐々木香織教員(英語系)(10月、国立保健医療科学院および英国エクセター大学(予定)、研究テーマ：「診療記録の電子化を科学社会論・社会的に探究する一生政治とIT技術と市民社会」)

【コロナ禍のために中止となった活動】

「外国人による集中外国語講座」(前期)／(夜間主) 通常授業による公開講座／英語レクチャー・シリーズ／東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会／教員免許状更新講習(英語系：参加者不足のため非開催)／教職研究会

【その他の活動】

- 「外国人による集中外国語講座」(後期)：リン・アイビー講師(英会話)／呉秀娟講師(中国語)／金昌九講師(韓国語)
- オープンキャンパス「模擬講義」(Web公開)：高橋優季教員(英語系)による「隣きの間に見える妖精の世界－英米文学における妖精詩の世界」の公開(9月1日～9月30日)
- 「双方向通信授業」：ダニエラ・カルヤヌ教員(英語系)がシレジア工科大学(ポーランド)と、章天明教員(中国語系)が北京語言大学中国語国際教育研究院と双方向通信授業を実施。
- 「異文化ビジネス教育」：ショーン・クランキー教授(英語系)がアメリカのポピュラー音楽を紹介するZoom講座“Friday Night Music Night with Clankie-sensei”を実施(10回講座)